

第214回 令和8年4月20日（月）

「足元を見る・遠くを見る」

私は残念ながらよく転びます。去年はランニング中転倒して右腕を骨折しましたし、細かい擦り傷はしょっちゅうです。

基本的に注意力散漫なところがあるので、考え事をしたり空を眺めたりしながら歩いていると足元の段差に引っ掛かります。遠いところを見るのが好きなのかもしれません。

考え方の癖もそうです。明日の準備ができていないと落ち着かない性格ではあるのですが、方針や戦略を考えるときには今年何をしようとか計画を立てるよりも先に「10年後どうなるか、20年後どうなるか」に意識がいきます。

足元を見ている人からすると「何でいまそのようなことを」と思うのかもしれませんが、遠くを見てからだんだん近くを整えるのが私のやり方です。

しっかり1年ずつ積み上げて将来成果を出すタイプの人もいると思いますのでどちらが良いというわけではありません。自分は先を見てから足元まで道を逆算するタイプか、足元を転ばぬようにしっかり固めて将来を見据えるタイプかどちらかということです。

たまに会議などで論点がかみ合わないこともあります。10年後を考えればこうだけど、いまは違うと思われるってしまうことは結構あり、私からみれば「困ってから始めたのでは遅い、いまやり始めないと」と思うのですが、時期尚早で理解が得られないこともあります。

確かに将来は予測通りになるとは限りません。思っていた未来と全く違う展開になることもありますし、むしろそちらのほうが多いかもしれません。

ただ一つだけ言えるのは近くのものを見てミスをしないようにすることも大切ですが、未来志向で考えたほうが絶対に楽しいのではないかということです。

人間は年をとるほど未来が少なくなっていくます。10年、20年先が見通せなくなるときが誰にでもやってきます。

若い人はいくらかでも未来を見ることが出来ます。その未来で自分がどのような姿をしているかを想像し、それに近づけるようルートを考えてください。

足元を見ずにつまづくことがあってもいいじゃないですか。若い人は今日どうやってミスをしたかより、10年後どんな成功をしているのかを想像するべきだと思います。